

平成22年度のプラスチック製容器包装モデル分別事業について

1. 事業の目的

- ①平成23年度から全市収集を開始するプラスチック製容器包装の分別収集の具体的な方法を検証するために実施する。
 - ・ただし、平成23年度実施するためには、日本容器包装リサイクル協会に今年の11月までに引渡想定量等を申請しなくてはならないので、前半のモデル分別事業の結果で判断することとなる。
- ②モデルの位置づけとして、異なった啓発や手段を導入して両地区を分別収集量の違いを検討するのではなく、両地区ほぼ同じ手法を導入し、できる限り分別参加率や分別排出率を高めるものとし、それにより全市収集時の収集量の想定が概ね妥当であるかどうかの検証をすることとする。ただし、収集頻度は収集費用に直接影響するので、週1回と月2回の2つのパターンを想定する。

2. 事業の内容

モデル分別事業で、分別参加率や分別排出率向上効果を検証する内容は以下のとおり。

①プラスチック製容器包装の分け方・出し方等の効果的な市民周知の方法

○分別開始情報及び分け方・出し方情報の情報伝達の方法

情報提供手段：地区説明会、自治会回覧板、マンション掲示板、広報誌・ホームページ、公共施設・駅等でのポスター掲載、各戸へのチラシ配布

分かりやすい分け方・出し方：パンフレット（対象となる容器包装の見分け方、洗浄の程度等…写真で汚れを落とす程度の表示やすべてを水洗いする必要は無いことの説明など）

分けることの意義：分別後のリサイクルの流れの説明によるきちんと分けることの重要性の伝達

○参加者を増やすための情報提供の方法

- ・自治会未加入の市民へチラシの各戸配布（アパート等への直接配布）
- ・高齢者用の大きな文字を使った出し方パンフの作成 等

②排出方法

- 透明（半透明）袋利用により、指定袋が不足しても継続的に分別排出できるようにする

③その他

- 食品用発泡トレイの拠点回収や店頭回収の積極的利用の呼びかけ

3. 効果の把握方法と得られた成果の活用

①効果の把握方法

- 収集日毎の、各モデル地区のプラ製容器包装の収集量（袋数、重量）の変化
- 食品発泡トレイの拠点回収量の変化
- 可能であれば、地域住民等から各方法に対する評価をアンケート調査や懇談会等で聴取

②成果の活用

- 分別収集量の設定
 - ・日本容器包装リサイクル協会への申請（分別基準適合物の量）
 - ・収集委託費用の積算
- 受入施設（選別・圧縮・保管施設）の処理能力の算定条件の提示

参考1 写真で示すきれいにする程度

- 写真でどこまで洗えば良いかの程度を示している。

写真1 京都市のプラスチック製容器包装の出し方



出典：京都市パンフレット

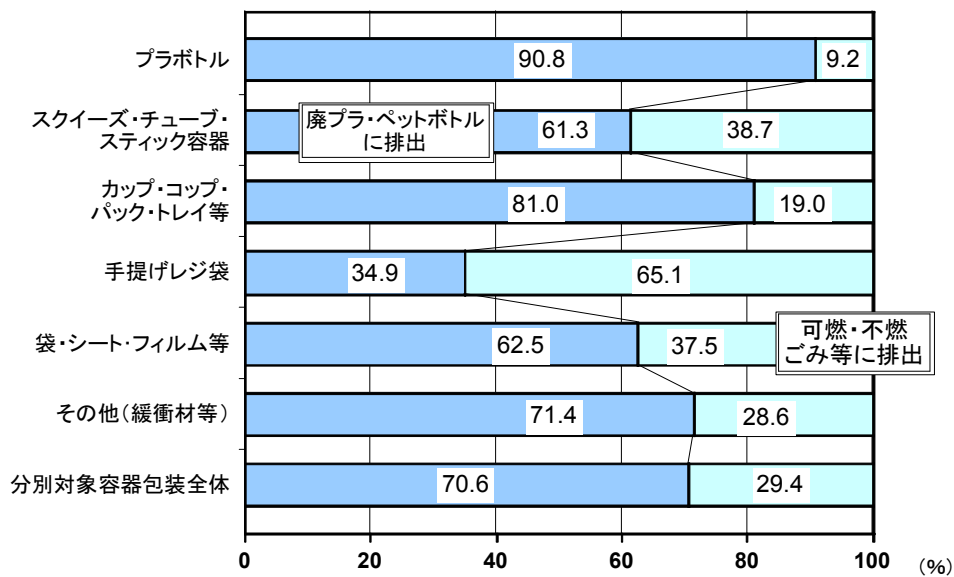
参考2 プラ製容器包装の形態別分別排出率

- 全体では23～26%の分別排出率であるが、白色トレイ、容器類（カップ、パック、トレイ）等の形のある物の分別排出率は30%であるのに対して、袋・シート等包装類は20%程度と低い。
- 次ページに寝屋川市の分別排出率の例を示すが、袋・シート等包装類は他の品目に比べ分別排出率は低くなっている。

		ひがりが丘	西松ヶ丘
		%	%
その他プラ	プラボトル	10.5%	19.6%
	スティック製 白色発泡トレイ	30.7%	29.0%
容器包装	容器類 (ボトル、白色発泡トレイ除く)	28.8%	33.7%
	袋、シート等包装類	21.8%	21.9%
	緩衝材、その他	28.9%	28.6%
計		23.2%	25.9%

【寝屋川市 (H21調査結果)】

参考図 廃プラ・ペットボトルの形状別分別排出率 (重量比)



注) 手提げレジ袋、分別対象容器包装全体は、ごみ袋に使用された手提げレジ袋の割合を含む。

出典：「寝屋川市一般廃棄物処理基本計画策定に係る基礎調査」(寝屋川市 H22)